

株式会社日本格付研究所より「A-」の格付を取得

埼玉県信用金庫（本店：熊谷市 理事長：橋本 義昭）は、2020年5月20日付で、株式会社日本格付研究所（JCR）より上位ランクに位置付けられる「A-」（シングルA マイナス）の格付を取得いたしました。当金庫の営業基盤である埼玉県で一定の利益水準を保持し、不良債権比率（金融再生法開示債権比率）も低く抑えられていることなどが要因です。

<格付の概要>

格付機関	株式会社日本格付研究所（JCR）
格付対象	『長期発行体格付』 ※債務者（発行体）の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したもの。
格付の据置	『A-』（シングルA マイナス） ※JCRの長期発行体格付は、「AAA」、「AA」、「A」、「BBB」、「BB」、「B」、「CCC」、「CC」、「C」、「LD」、「D」の11等級に区分され、「A」は上から3番目となります。 「A」の意味は「債務履行の確実性は高い」とされています。 また、「AA」から「B」までの格付記号には同一等級内での相対的な位置を示すものとして、プラス（+）もしくはマイナス（-）の符号による区分があります。
取得日	2020年5月20日（水）
主な格付事由	（1）埼玉県内全域に店舗網を持ち、貸出シェアは県内3位。地元で強固な事業基盤を有している。 （2）貸出金利回りを重視する営業推進方針の転換、コスト削減の取組みによりコア業務純益が落ち込む懸念は小さいとみている。 （3）不良債権比率（金融再生法開示債権比率）は2019年9月末で1.6%と信金業界平均を大幅に下回る。 （4）有価証券運用の金利リスク量は大きな水準にはない。

<JCR による格付事由>

- (1) 埼玉県熊谷市に本店を置く資金量約 2.8 兆円の信用金庫。多様な産業基盤などを背景に預貸金の市場規模が大きい埼玉県において、当金庫は県内全域に支店網を持ち、貸出シェアは県内 3 位と一定のプレゼンスを有する。相応の事業基盤や良質な貸出資産を有していることなどが格付を支えている。地域金融機関の中では収益が比較的安定し、底打ちしていることなどから見通しを安定的とした。一方、コア資本比率の低下に歯止めをかけられるかが課題である。
- (2) コア業務純益（投資信託解約損益を除く）は、17 年 3 月期をボトムに 18 年 3 月期以降は増益基調が続いている。貸出金利回りの低下により貸出金利息は減少傾向にあるが、投信分配金を中心にした有価証券利息配当金（同）の増加や経費削減が寄与している。今後は基幹システムの更改に伴う経費の増加が圧迫要因となるが、貸出金利回りを重視する営業推進方針に転換したこと、店舗ネットワークの最適化や人員見直しなどのコスト削減により、コア業務純益が大きく落ち込む懸念は小さいと考える。
- (3) 金融再生法開示債権比率は 19 年 9 月末で 1.60%（部分直接償却は未実施）と、信金平均を大幅に下回る水準にある。小口分散が図られていることに加え、大口不芳先の未保全額も少ないなど資産の質は良好である。信用リスクの大きい債務者に対して保守的な引当がなされている。しかし、最近是一部特定先のランクダウンなどにより与信費用が増加傾向にあるほか、今後は新型コロナウイルスの感染拡大の影響による与信費用の動向を注視する必要がある。
- (4) 有価証券運用では、債券から SCB グローバル信託や投資信託などリスク資産へのリバランスを図ってきたことが、有価証券利息配当金（投信解約損益を除く）の増加に寄与してきた。金利リスク量は資本対比でみてさほど大きな水準にはない。投資信託残高が大きく増加しているものの大半が債券型であり、株系資産にかかわる価格変動リスクは大きくない。
- (5) コア資本比率はリスクアセットの増加により低下傾向にあり、19 年 9 月末で 8.16%（単体）。調整後のコア資本比率も A レンジの地域金融機関の中では見劣りする水準にある。しかし、今後は営業推進を貸出金の量から質重視に転換しリスクアセットの増加を抑制していく方針であり、JCR は現状程度のコア資本比率を維持していけるか注視していく。

本件のお問合せ

埼玉県信用金庫 総合企画部：山田

電話：048—526—1111 URL：<http://www.saishin.co.jp>